（ロ）ケアの必要な子どもの世話をするボランティア（Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下DICV/ECDV）の育成

■ 11月30日　子どもの経験交流イベント

石を使って自分で物語を作る遊び。南ア版おままごとのようなもので、石は家族など知っている人が多い。このストーリーから子どもが置かれている環境が伝わり、虐待の発見につながることもある。この日は夜遅くに薪を拾いにいくストーリーだったため、DICVから子どもたちに早めに行くよう注意が促された。

各村の子どもたちがそれぞれ練習、準備してきたことを披露。以前は恥ずかしがって発表をしなかった村の子どもたちも積極的に参加をするようになり、過去の交流をつうじて、子どもたちが学び、自信をつけた様子が観察された。

（ロ）ケアの必要な子どもの世話をするボランティア（Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下DICV/ECDV）の育成

■ 2月22日　DICボランティアとカウンセリング研修の振り返り

ファミリーツリー（家系図）を写真でつくったボランティア。多くのボランティアが自分の親族に相談しながら作成。自分たち自身が家族の知られざるヒストリーを発見する機会になりました。子どもも一緒に作業したというボランティアも多くいて、次世代へと情報が受け継がれていきます。

自分のこと、家族のことなどを書き残しておくノート。今後はDICに通う子どもたちや家族と一緒に、メモリーボックスつくりを進めることが期待されます。

（ロ）ケアの必要な子どもの世話をするボランティア（Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下DICV/ECDV）の育成

■ 4月1～3日　子どもの世帯調査

ＪＶＣと協力して何の項目を調べれば子どもたちや家庭の様子がわかるのかを検討し、調査表を作成。学校に行けているか、お母さんの様子は（きちんと世話をしているか）、食べ物はあるか、などインタビューと観察によって調査をしました。これで3回目になる調査、大分質問をするボランティアも慣れてきました。

兄弟そろってDICに通っています。好きな科目や将来の夢なども話してくれました。

（ホ）生活改善のための家庭菜園づくり

■3月17～19日　ヒャンガナニDICでの菜園研修

DICの敷地の一部に菜園を設置しました。昨年の教訓を生かし、手入れができる規模に菜園を縮小しましたが、畝に苗を4列植えることで収穫量を確保します。また、鳥などに苗が食べられないよう、フェンスも設置しました。

実践と座学を交えた研修。センターの木陰で、有機農法の基本を学びます。